

令和2年10月の解説（府県天気予報）

【10月の天候状況】

上旬は、北日本と東日本では、低気圧や前線、湿った空気の影響を受けやすく、曇りや雨の日が多かったため、日照時間は北日本と東日本でかなり少なくなりました。また、台風第14号が10日頃にかけて本州の南海上をゆっくり東進し、本州南岸に停滞する前線の活動が活発化した影響等で、伊豆諸島南部に一時大雨特別警報が発表されるなど、東・西日本太平洋側を中心に大雨となった所があったため、降水量は東日本太平洋側でかなり多く、西日本太平洋側で多くなりました。一方、西日本と沖縄・奄美を中心に湿った空気の影響を受けにくかったため、降水量は西日本日本海側と沖縄・奄美でかなり少なく、日照時間は沖縄・奄美で多くなりました。気温は、暖かい空気が流れ込みやすかった北日本と西日本と、高気圧に覆われて晴れた日の多かった沖縄・奄美で高くなりました。

中旬は、北日本、東日本、西日本では、高気圧と低気圧が交互に通過し、天気は数日の周期で変わりました。高気圧が日本海から北日本を進んだため、降水量は東日本日本海側はかなり少なく、北日本日本海側で少なくなりました。また、西日本日本海側の日照時間は多くなりました。一方、東日本太平洋側では前線や湿った東風の影響を受けやすかったため、日照時間は少なくなりました。気温は、北日本、東日本、西日本では、期間の前半は暖かい空気が流れ込みやすかったですが、期間の後半は寒気の影響を受けやすかったため、平年並となりました。一方、沖縄・奄美では、暖かい空気に覆われやすかったため、高くなりました。

下旬は、22日から23日にかけて前線を伴った低気圧が日本列島を発達しながら通過した影響で全国的に天気が崩れ、東日本日本海側や西日本、沖縄・奄美では大雨となった所があったため、降水量は西日本日本海側でかなり多く、東日本日本海側と西日本太平洋側、沖縄・奄美で多くなりました。北日本日本海側ではその後も低気圧や前線の影響を受けやすく、日照時間は少なくなりました。一方、東日本と西日本では24日頃からは移動性高気圧に覆われやすく、晴れた日が多かったため、日照時間は西日本日本海側でかなり多く、東日本と西日本太平洋側で多くなりました。気温は、低気圧に向かって暖かい空気が流れ込みやすかったため、北日本では高くなりましたが、東日本以西では25日頃を中心に寒気の影響を受けたため、平年並となりました。

【10月の検証結果】

17時発表の天気予報による「降水の有無」の全国平均の適中率は、明日予報は例年値^(注)より3ポイント高い88%で、明後日予報は例年値より5ポイント高い86%でした。地方別の適中率では、明日予報は、東北、東海、近畿、中国、四国、九州北部、九州南部、沖縄の各地方で例年値を上回りました。また、明後日予報は、関東甲信地方で例年値と同じだった以外は、すべての地方で例年値を上回りました。

同じく17時発表の天気予報による明日の最高気温の予報誤差は、全国平均で例年値より0.4℃小さい1.2℃で、すべての地方で例年値よりも小さくなりました。また、最低気温の予報誤差は、全国平均で例年値より0.3℃小さい1.1℃で、すべての地方で例年値よりも小さくなりました。

(注) 例年値は気象庁HP(予報精度検証)内「月毎の精度の例年値」を参照してください。

【12月の天気予報の利用にあたって】

12月は、本格的な雪の季節の始まりです。低気圧が発達しながら日本付近を通過して強い冬型の気圧配置となるときには、北日本や東日本と西日本の日本海側では大雪や暴風雪により、交通機関への大きな影響や大規模な停電などの被害が発生するおそれがあります。各地の気象台で発表される最新の気象情報や注意報、警報等に留意し、事前の備えをしてください。